

●復活後第二主日

泉のほとり

今月の詩編「第九十八編」

主は来られる、地を裁くために。

主は世界を正しく裁き

諸国の民を公平に裁かれる。



殺してはならない

「わたしは主、あなたの神」と始められた十戒。第一から第四戒まで、主なる神ご自身と人との本来の関係を中心に戒め、第五の戒めからは人と人との関係における具体的な戒めを語ります。その最初の戒めが「父と母を敬え」です。「敬う」という心のありようが命じられ、心と行いの不一致という人の「偽善」を排除していることに気付かされます。安息日の戒めにおいても、人は「するか、しないか」といったマニュアル的な行動指針を作り上げ、それで戒めを守ったとする「人の偽善」がありました。偶像礼拝においても形さえ作らなければよいと思う「人の偽善」があり、人は「神」を告白しながら、神としていない「偽善」もありました。そして十戒後半においても「行い」を制する戒めに見えるため、「やった」、「やってない」という外側の基準にとらわれ、内側に向けての戒めだとは見えない傾向があるかと思いますが、人の偽善を排除する内容が続きます。

正に、第六戒「殺してはならない」について、主イエスはマタイの福音書5章で、「兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は火の地獄に投げ込まれる」と語られました。実際、血を流すような暴力がなくても、内側にある軽蔑、憎悪、恨み、妬みなど、怒りを伴うそれが人殺しであると教えていただきました。

しかし、この主イエスのことばをそのまま受け入れるより、実際の感覚として人はやはり「血を流す殺人」を人殺しとし、怒りや憎しみは「火の地獄」と言われるほどのものではないという甘い理解ではないかと思えます。しかし、私たちは主が「火の地獄」と宣告されるほど、神は人殺しを忌み嫌われるものであることを心に刻んでいきたいのです。

天地を創造された神が、人をご自身にかたどって造られた「初めの世界」、神が「極めてよい」とされたその世界は、律法がなくとも神を愛し人を自分自身のように愛する、平和に満ちた世界でした。そこには軽蔑も妬みもありませんでした。天の国から来られた主にとって、私たちが「普通」としている怒りや中傷は、あまりにも異質で悲惨な暴力であり、人殺しに他なりません。人類が毎日繰り返して、妬み合い、裁き合っているこの現状は、天の視点から見れば、既に「地獄」のような光景なのです。私たちがそれを異常と感じないのは、心が神から離れ、心が鈍くなっているからです。

何より、人が人を中傷し、赦さないことは、その「人」を造られた神への甚だしく大きな暴力です。それは人への暴力以前に、人殺し以上に、その「人」を造られた方への、神の尊厳を破壊する暴力にほかなりません。しかし、神はご自身への悲惨な暴力に対し、忍耐され、直ちにその報いを実現されるのではなく、御子をお与えにされました。

主イエスは、人々から生まれ、嘲られ、軽蔑されても、のしり返すことなく、十字架で代償のささげ物とされました。それは、怒りや憎しみを「仕方ないこと」として生きてきた私たちをその束縛から解き放ち、神の似姿、キリストの姿へと回復させるためです。使徒ペトロが語るように、主は自らその身に私たちの罪を担ってくださいました。それは私たちが罪に対して死んで、義によって生きるようになるためなのです。

「殺してはならない。」

この戒めが私のうちに実現されることを、心から願っていますか。「人間誰もがそう生きていける仕方のないこと」とこの世の常識に止まるのではなく、自らの内にある「人殺しの心」を隠さず、十字架の主の前にはりつけにしていきたいと思います。主の裂かれた肉と血を食しながら、なお人を殺す心を抱くことを恐れ、そこから完全に解き放たれたいと願うのです。私たちの内側まで癒し、全存在を「よい」としようとしておられる神の御心を受け止め、日々内側から喰われる怒りに振り回されず、私を新しく造り変えてくださる神の力を確かめて歩んでいきたいと思えます。

(出エジプト記二〇章二三節黄允湜牧師)

2026年度

教会全体課題

神さまによって

示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 定例役員会をカナルームで行います。役員の方はお集まりください。

○ 教員メールでお知らせした通り、田端剛爾兄が四月二日の深夜、お亡くなりになりました。ご遺族のためにお祈りください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和
します。

【詩篇九十八篇】賛歌。

新しい歌を主に向かって歌え。

主は驚くべき御業を成し遂げられた。

右の御手、聖なる御腕によって

主は救いの御業を果たされた。

主は救いを示し

恵みの御業を諸国の民の目に現し

イスラエルの家に対する

慈しみとまことを御心に留められた。

地の果てまですべての人は

わたしたちの神の救いの御業を見た。

全地よ、主に向かつて喜びの叫びをあげよ。

歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。

琴に合わせてほめ歌え

琴に合わせ、楽の音に合わせて。

ラッパを吹き、角笛を響かせて

王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。

とどろけ、海とそこに満ちるもの

世界とそこに住むものよ。

潮よ、手を打ち鳴らし

山々よ、共に喜び歌え主を迎えて。

(司・会)

主は来られる、地を裁くために。

主は世界を正しく裁き

諸国の民を公平に裁かれる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「主イエスの証人たちから」

聖書 ルカ24章36〜48節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「天に帰られた主イエス」

聖書 使徒1章6〜11節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 151番 341番

説教 「姦淫してはならない」

聖書 出エジプト記20章14節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 148番 234A番
説教 「神が先立って行かれる」
聖書 創世記12章1～7節(旧約 P.15)
ヘブライ人11章8～16節(新約 P.415)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「フーガ イ長調」J.S.バッハ

○讃美歌148番

1.すくいぬしはハレルヤ
よみがえりたもうハレルヤ
かちどきあげてハレルヤ
み名をたたえよハレルヤ

2.十字架をしのびハレルヤ
死にて死にかちハレルヤ
生きていのちをハレルヤ
ひとにぞたまうハレルヤ

3.主の死によりてハレルヤ
すくいはなりぬハレルヤ
あまつつかいとハレルヤ
ともにぞうたわんハレルヤ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌234A番

1.昔主イエスの播きたまいし
いとも小さき生命のたね
芽生え育ちて地のはてまで
その枝を張る樹とはなりぬ

2.歴史のながれ旧きものを
返らぬ過去へ押しやる間に
主イエスの建てし愛の国は
民よりたみへひろがりゆく

3.時代の風は吹きたけりて
思想の波はあいうてども
すべての物を超えてすすむ
主イエスの国は永久に栄えん

4.父なる神よみ名によりて
世界の民をひとつとなし
地をばあまねくみ国とする
みちかいをとくはたしたまえ

アーメン

聖餐曲「わが事を神に委ねたり」J.S.バッハ

後奏曲「あがめよ、たたえよ、父なる神」E.フーロト